

平成31年1月15日（火）

平成30年度第三学期始業式式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

自分を生きる志について

サッカー全国高校選手権で秋田商業が32年大会ぶりベスト8、バレーボール全日本高校選手権で男子雄物川が5大会ぶりベスト8と、昨年夏の全国高校野球選手権準優勝の金足農業に続く、県内公立高校の全国での活躍が、新年早々話題となりました。全国大会では、名門私立高校が上位に進出する昨今にあって、公立高校の躍進は目を引きまします。チーム一丸となって体を張ってシュートを防ぐ堅い守り、一瞬の隙を突きチャンスを生かす決定力、懸命にピッチを走り回り、最後まで闘志あふれる秋商選手の姿や、力強いスパイク、サーブ、速攻を武器とする雄物川の選手の姿に、秋田の高校生ばかりでなく県民も勇気を与えられました。

昨年度の、南東北インターハイボート女子ダブルスカル優勝と、愛媛国体カヌー競技スプリント男子カヤックシングル200m優勝という、二つの全国大会での本高生の優勝が、いかに輝かしいものだったのか、改めて認識させられます。今年度は、東海インターハイで、ボート女子舵手つきクォドルプル、柔道男子個人、カヌー競技スプリント男子カヤックシングル、ペアで入賞、福井国体でも男子カヤックシングルで入賞と、本高生の全国大会での活躍が続きまします。校標「右文尚武」の伝統を引き継ぎ、活躍する本高生の姿も、今話題に挙げた学校の活躍に遜色がないものです。

1月11日（金）、ある全国紙の「ひと」欄で紹介された「ゲームで大腸がんについて啓発する日本うんこ学会長」の石井洋介さんの記事が、目にとまりました。

石井さんは、中学3年の時、血便を初めて経験します。高校入学後、39度台の熱が続くようになり、一学期の期末テストも受けられないまま、検査入院。病名も分かり、通院治療を行っていたものの、病状は改善しません。通学中、おなかが痛くなって電車を途中で降りることが続いたため、しょっちゅう遅刻。友達と買い物さえできず、居場所がなくなって不登校に。卒業後は、フリーターになりました。

その後も、出血と高熱に襲われ緊急入院したり、輸液だけの生活を続け体重が36キロまで落ちたり…。ある日、トイレで突然の大出血をして意識朦朧に陥ります。大腸に穴が開いた「穿孔^{せんこう}」という危険な状態で、大腸全摘出の手術を受け、一命を取り留めました。

その時、19年間生きてきて、このまま死んだら何のために生きてきたんだろうという感覚に襲われます。誰かに貢献することが生きた証になるのではないか。死なずに済んだら、残りの人生は人のために使おうと決心。とはいえ、19歳の若さで人工肛門を着けた頃は、社会に復帰できるか不安がつのります。

20歳の時、人工肛門を閉じる手術が地元横浜の市民病院で行われていることを知り、手術を受けます。手術の成功によって、外出や職業選択など、すべてに自由が与えられ、無限の可能性が広がったと、感じられるようになりました。外科医に憧れ、医者になりたいと思うようになったものの、勉強しようにも体力がなく集中力が続かない。しかも、センター試験の最初の模試で数学 200 点満点のうち 6 点という、偏差値 30 からのスタートです。しかし、2年半の猛勉強、これ以上成績を伸ばすのに限界を感じ、「これでダメなら諦めよう」と臨んだ最後の受験で、高知大医学部に合格します。

卒業後、執刀をしてくれた先生がいる病院で働き始めますが、その後手術の限界を知らされます。30代の女性患者で、大腸がんが進行し手術で取り切れる時期を逃してしまうのです。早期発見でかなりの確率でよくなりますが、多くの人は検診や自分の便の状態に関心がありません。それを変えられないか。そこで、考えた末に「学会」をつくって、仲間とスマートフォンゲーム「うんコレ」の開発をしたのです。

かつては自分の力を世の中に還元できれば、いつ死んでもいいと思っていましたが、現在は病理医をしている妻との間に長男が生まれ、自分を大切にしようという気持ちが芽生えてきました。

難病、命の危機、若くして人工肛門という人生の試練、そして受験生としての年齢、健康、学力等、多くの困難や常識を乗り越え、今医師として活躍しています。どんな試練を与られても投げやりにならず、逆に逆境から大切な気づきを得て、自分が生きた証として誰かに貢献する人生を生きよう、残りの命をその志に賭けようという、「自分を生きる志」を抱き、若者らしい自分の未来への挑戦と努力を続け、現在に至っています。

人ははなやかな結果に目を奪われがちです。しかし、二学期終業式式辞でノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑先生は、わずかな希望の光さえ見えないような、限りなく広がる「混沌」という研究にあって、失敗の連続でも、志があれば必ず成し遂げられるという座右の銘「有志 竟成^{ゆうしきようせい}」の下、Curiosity（好奇心）、Challenge（挑戦）、Courage（勇気）、Confidence（自信・確信）、Concentration（集中）、Continuation（継続）という6つの「C」を実践しつづけ、人類に貢献する研究成果を成し遂げたことを紹介しました。

3月間もない1月、石井さんの青春が想起される記事には、「自分とは何でどこへ向かうべきか 問い続ければ見えてくる 荒れた青春の海は厳しいけれど 明日の岸辺へと夢の舟よ 進め」と透明感をもってやさしく、強く、歌う歌声や、「振り返ることもせず 勇気を翼にこめて」と、未来への夢や可能性という無限の空に飛び立てと、若者をあたたかく見守り、励ます歌が流れてきます。

3年生の皆さんは、これまでの高校生活の中で、多くの学びと気づきを得るとともに、困難と思えることもたくましく、しなやかに乗り越える人間力を高めてきました。受験期は、苦しさもあるが、勉学の大切さ、おもしろさも教えてくれます。

3年生の姿は、1、2年生の後輩にとっても、大きな励みと勇気、そして希望となるものです。自己の可能性を信じ、最後まで冷静に、悔いなくやり切ることを祈っています。